

エンタメ

entame



西郷隆盛の生涯を描くNHK総合の大河ドラマ「西郷どん」で、俳優、青木崇高が、薩摩藩の最高権力者で、鈴木亮平演じる西郷の「生涯の敵」、島津久光（1817～87年）を熱演している。「久光は西郷をとことん嫌う半面、薩摩に必要な人物だと認めていると思う。そういったところが、現実にもありそうな人間らしい関係に映れば」と青木は話す。（尾垣未久）

久光は薩摩藩主・島津齊興の五男。藩主を継いだ異母兄、斉彬の遺言で実子の茂久を藩主に据え、自身はその後見人として藩政の実権を握り「国父」と呼ばれた。青木も「明治維新につながるきっかけを作った、大変な行動力と決断力の持ち主」と評する。

ただ、ドラマでは斉彬（渡辺謙）の死後、遺志を継ぎ国を変えようと意気込むが、家臣の西郷とそりが合わず対立を深めていく。幕政改革のための計画を西郷に批判され激昂するなど、感情をあらわにする場面も多く「かなり人間

的に演じています。嫌なやつだけど、憎めないキャラクターかな」と笑う。

演じるにあたり、資料を綿密に調べ、読み込んだ。大阪歴史博物館（大阪市中央区）で開かれている同ドラマ特別展を訪れた際には、久光一行の行列の先頭に掲げられた毛槍などを鑑賞し、「存在を知っていたものでも、実物を目にするとひと味もふた味も違う」と改めて思ったという。

撮影以外でも久光の「国父」らしさを意識している。「暑い中、戦のシーンを撮影するメンバーに

「国父」らしさを常に意識

島津久光役 青木崇高



「演じ方にはその人の生き方が必ず表れる。まずは一日一日を一生懸命生きよう」と心がけています」と話す青木崇高（前川純一郎撮影）

『薩摩からの物資じゃ!』ってジューズを差し入れしたり、メールでも薩摩弁を使ったり」。大河ドラマ出演は「龍馬伝」「平清盛」に続き3作目。長い撮影期間中、演じる人物が何を思うのか、常に考え続けているという。「しだいに役柄の人格が自分の中で育っていき、体が勝手に動いて自分自身

驚かされることもあります」

ドラマでは今後、幕末の英雄たちの活躍が描かれ、怒濤の展開を迎える。「激動の時代の第一線で、命を燃やして時代をつくろうとしてきた人たちの魂が映し出される。久光が引き立ててきた大久保一蔵（瑛太）との関係性の変化にも注目してほしい」と話す。